**資料3 副読本改定にあたって考慮すべき事項について（意見交換）**

これから改訂作業を進めていく「ユニバーサル都市・福岡」児童向け副読本について、各委員のご視点から考慮すべき事項等がありましたら、ご意見をいただけますと幸いです。

■「ユニバーサル都市・福岡」児童向け副読本

　「ユニバーサル都市・福岡」の実現の一環として、小学生がユニバーサル都市・福岡やユニバーサルデザインなどについて学ぶために、総合学習で使用するための児童向け副読本として配布しているもの。　※主に小学４年生の授業で利用

■今後の改定作業

　・ウェブサイト構築

　・冊子版教材（アクセシビリティ対応PDF）の制作

■検討にあたってのポイント

ポイント１：配色

ポイント２：メニュー構成

ポイント３：機能

■ポイント１：配色

事業者からは、以下のユニバーサル都市・福岡の世界観とコントラスト比等も考慮して、配色については以下の提案があっている。次ページ以降の色覚多様性のシミュレーションでも視認性が著しく低いと思われる部分はないため、この配色で今後の検討を進めていきたい。

ただし、赤、緑については見え辛くなる傾向があるため、デザインの際には引き続き注意するものとする。

（事業者からの配色の提案）

ユニバーサル都市・福岡のロゴマークとキーカラーのトーンマナーをもとに、文字は読みやすく、楽しんで学習できるようなポップなトーンにまとめました。

文字と背景のコントラスト比は4.5：１以上の明視性の高い色を選択しました。

■ポイント２：メニュー構成

　　メニュー構成については、８つのメニューと参考リンク集等の関連機能を検討している。今後内容を検討していく上での前提となるため、本構成に対して盛り込むべき事項や欠けている視点がないか議論をお願いしたい。

１　ユニバーサルデザインを学ぶ理由や必要性 など

・ユニバーサル都市・福岡とは？

・ユニバーサルデザインを学ぶ理由や必要性

・ユニバーサルデザインの定義

・ユニバーサルデザインの７原則

・ユニバーサルデザインの生まれた経緯

・ユニバーサルデザインとバリアフリー

（ポイント）

社会における価値観の変化を代表するものとして、インクルーシブ、ダイバーシティといった言葉などがよく使われるようになっており、そのあたりも触れるようにする必要がある。

２　身の回りの人々のことを考えるコンテンツ

家族や高齢者、障がい者、感覚過敏など、身の回りにいる多様な人々の生活や困っていること、困っている理由、世の中にある工夫や仕組み、自分に何ができるかを考えるコンテンツ

※掲載件数として15件程度を想定

（ポイント）

・それぞれの多様性をネガティブなものとして映らないようにする。

・現行の副読本では、高齢者や身体に障がいのある方を中心に取り上げていたが、これに加えて、感覚過敏といった特性を持つ方も取り上げるようにする。

３　ユニバーサルデザインの観点で身の回りの人々の視点を疑似的に体験できるコンテンツ

・身の回りの音サイン（駅の誘導チャイム、音響式信号など）

・ベビーカーや大きな荷物でも通れるスロープ、改札 など

　　※掲載件数として10件程度を想定

（ポイント）

・ウェブサイトのメリットを活かして、見てみよう、聞いてみようという形で構成

・現行の副読本では、アイマスクなどを実際に着用した前提で分かったことなどを書き出す作りとしており、そのような授業パターンにも対応できる形とする。

４　自分でユニバーサルデザインを考えるコンテンツ

・児童の自由な発想や思いやりによる新たなユニバーサルデザインを思い描く（書き出す）コンテンツ

（ポイント）

・児童に実際にイメージしてもらう重要なコンテンツ

・どのような流れであれば授業が進行しやすいか先生からのご意見を聞きながら検討

５　まちの中のユニバーサルデザインを探す、見つけるコンテンツ

・地図やイラスト上のコンテンツを選択すると、ユニバーサルデザインの事例が文字、音声、画像、動画などで表示されるコンテンツ

　　※掲載件数として50件程度を想定

例）公園の遊具／まちなかのベンチ／ＵＤタクシー／ノンステップバス／地下鉄／信号／点字

ブロック／自動販売機／シャンプー・リンス／ピクトグラム／スロープ／パラスポーツ／飲食

店の多言語メニュー など

（ポイント）

・地図上にプロットする事例については事務局検討中（募集中）

・タイピングについては、早さのみを基準とするとタイピングに時間がかかる児童もいるため、　正確性といったモードも作れないか要検討

６　ユニバーサルデザインの事例

・まちの中のUDでは表現が難しい事例を背景とともに掲載

　　※掲載件数として20件程度を想定

例）音声コード／パートナーシップ宣誓制度／手話放送／ＡＴＭの点字／食のユニバーサル

対応／やさしい日本語／インクルーシブ防災訓練 など

（ポイント）

・まちの中のUDでは短い文章で紹介できる事例を取り上げ、こちらでは背景も含めて詳細が必要な事例を紹介するといった切り分けを想定。

７　ユニバーサル都市・福岡を目指す市の取組み

・市がこれまでに取り組んできた事例を掲載

　　※掲載件数として20件程度を想定

　　例）インクルーシブな子ども広場／ベンチプロジェクト／認知症デザインの推進／施設整備に

係る取組み など

（ポイント）

・「６．UDの具体的な事例」との切り分けについて要検討

８　事業者の独自提案

最後にクイズで楽しみながら学習の振り返りを行います。３択で簡単に解けるようにし、　最後まで飽きさせない作りとします。

（ポイント）

・どのようなクイズ構成とするか。

例）バリアフリートイレのユニバーサルデザインは何だろう？

①オストメイト対応、子供用のいす、おむつ交換台があるトイレ

②車いすの方が使いやすいように、いろいろなものは付けないトイレ

③子供が遊べるように、遊具があるトイレ

■ポイント３：機能

１）ウェブサイト

・レスポンシブデザイン

　　　　多様な端末からの利用に対応するためレスポンシブデザインを採用する。

　　　　ただし、児童に配布されているChromebookの横表示での最適表示を優先とする。

・言語対応

Google翻訳によって英語、韓国語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、ベトナム語、

ネパール語に対応する。

・情報保障

ウェブサイトの読み上げに対応した作りとするともに、動画や画像には字幕を併記する。

・ウェブアクセシビリティ

原則として、以下に準拠する。

　　　　　・デジタル庁「ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック」

　　　　　・JIS X 8341-3:2016のウェブアクセシビリティ適合レベル「AA準拠」

２）冊子版教材

①アクセシビリティ要件

　　　　・コンテンツの情報が正しく論理構造化されていること。

　　　　・冊子版教材をブラウザ上で開いた場合も、ダウンロードしてAdobe Acrobat Readerで

　　　　　開いた場合も、テキストの読み上げが可能であること。

　　　　・文書の読み上げ順序が適切であること。

　　　　・画像などに対してテキストによる代替情報を付与すること。

　　　　・見出しタグを付与し、見出しジャンプ機能を使うことができること。

②フィールドワークを想定した作り

　　　　・現地で聞いたこと、調べたこと、気づいたことなどを書き込めるスペースを設ける。